

(別紙2) 平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500431		
法人名	社会福祉法人 それいゆ		
事業所名	シャルールコパン		
所在地	〒836-0007 福岡県大牟田市城町1丁目7番2		
自己評価作成日	平成26年6月15日	評価結果市町村受理日	平成26年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4091500431-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ	
所在地	〒831-0005 福岡県大川市向島602番地5号室	
訪問調査日	平成26年7月2日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>法人の理念である『私たちはみな様の 自由な暮らし 願いや想い 人との絆 そして自分らしさを大切にします』を基盤にした生活支援に取り組んでおり、事業設立にあたり6つのマニフェストを掲げています。</p> <p>①「身体拘束をしない」物理的な抑制だけでなく、言葉による抑制も含めて取り組んでいます。</p> <p>②「月1回以上の楽しみ事」季節の花見物や買い物、ちょっとした日帰り旅行を行っています。</p> <p>③「自分の思いを話せる本人会議」要望や共同生活上の課題について話し合います。</p> <p>④「食事の楽しみ」旬の食材や外食を楽しみ、調理を一緒に行い力を発揮していただきます。</p> <p>⑤「ご家族や地域の方々との繋がり」支援する者として協働し、イベントを通して繋がります。</p> <p>⑥「最期まで人としての役割を持つ」それぞれの能力に合わせて役割があります。</p> <p>併設した小規模デイサービスや法人としての多様性を活かして、人生の最期を楽しみそして安心して暮らしていただけるよう、シャルールコパンの意味でもある“あたたかい仲間”になって支援します。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>シャルールコパンは、遠方からの親戚や知人が訪れやすい(有明海沿岸道路の健老インターからほど近い)閑静な住宅街に立地しています。白壁の洋風な外観の建物で、2階はグループホーム、1階は小規模ディサービス・地域交流プラザとして利用されています。敷地内にはランドゴルフも出来る広い芝生のスペースがあり、利用者の散歩や日光浴、地域の方々との交流の場として活用されています。また、近くには法人内の別事業所や夜間対応の協力医療機関があり、急病や災害など何かあった際の連携体制も整っています。</p> <p>法人で掲げた理念をサービスに反映させていく為に、法人全体で研修や勉強会・委員会活動などに精力的に取り組まれており、情報の交換や共有により「利用者本位」の暮らしを実現出来るよう努められています。</p> <p>ホームとして特に力を入れていることとして「楽しみのある暮らしの提供」が挙げられます。日頃の利用者や家族との会話の中で受け取った言葉だけではなく、週に一度テーマを決めて利用者からの話を聞く機会も設けられており、話を伺った後は利用者の望むことを叶えるために職員全員で話し合われています。利用者の思い出を大事にすることや食を楽しむこと、日常的な外出支援など、利用者が毎日の生活を笑顔で楽しく過ごせるように職員全員が一丸となって取り組まれていることをうかがい知ることが出来ました。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づきサービスを遂行しており、毎朝理念を唱和して共有し、普段のケアで迷った場合の判断基準としている。委員会でも抑制廃止、サービス委員会などを通して、理念の実践を展開している。新人研修では理念について考える単元を持ち、全ての職員が意味を理解してサービス実践に繋げている。	法人の理念の他にホーム独自のマニフェストを掲げ、日々の介護サービスの指針とされており、マニフェストは職員が自由に意見を出し合いながら作成されており、実践しやすくなるようにわかりやすい言葉で整理されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の催し物や学校行事に参加する他、事業所で流しそめんやグランドゴルフ大会を開催し、地域の方も呼びかけ交流を図っている。また近隣のごみ拾いや買い物等地域へ出る機会に努め、子供たちの訪問や近所の方より花をいただいたり、お彼岸にはこちらからおはぎをお裾分けする等、相互の交流がある。	ホームでは、地域との共生を重要視されており、地域の方々が気軽に遊びに来られる開かれたホーム作りを目指されています。様々な行事を企画して近隣の方々を招いたり、中学生の職業体験や幼稚園児による慰問を受入れたり、様々な交流の機会が設けられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して日常の様子を報告したり、福祉実習や地域の子供たちの訪問を受け入れ、直接認知症の方と接していただくことで理解に繋がる場としている。また近所の商店や散歩などを行い、ご利用者の姿を通して認知症の人への理解を広げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居や事故の状況の他、行事や日常の様子を画像を使ってわかりやすく報告している。定期的に外部からの視点で意見やアドバイスをいただき、庭の活用方法や外出先等運営に取り入れている。実際の夜間帯での防災訓練にも、避難誘導を協力いただいた。最近ではパート職員の紹介もしていただき助かっている。	会議では、ホームで起こった事故の報告だけでなく、事故に繋がる危険のある事例を発表するなど、積極的な情報開示に努められています。利用者の日常生活や行事の様子をテレビモニターを通して見て頂く機会などの工夫も見られます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員として2ヶ月に1回参加していただき、現状報告を行い意見や提案をいただいている。また、様々な制度等運営に関して不明な点があれば問い合わせたりと気軽に相談できる関係である。また1階のデイサービスとの連携で包括からの虐待ケースへの支援を行った。	担当者とは、日頃から電話などで連絡や相談が行われています。行政からの協力依頼を受け、より良い関係の構築に努めています。あんしん介護相談員の受入れ事業所でもあり、サービスの向上に繋がられています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として委員会を設置し抑制廃止に取り組んでいる。物理的抑制に止まらず、言葉による抑制にも目を向け、アンケートを通して職員個人が振り返る機会を持ち、意識が高められるように取り組んでいる。 日々の業務の中でも職員間で互いに気づき言い合える関係に努めている。	法人全体で「身体拘束ゼロ」を目指されており、委員会活動や事例検討会などが行われています。ホームでは実際に職員をベッドや椅子に拘束し、体験することで拘束をされた側がどう感じるかを考える機会が設けられる等、熱心な取組が見られます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修計画に組み込み社会福祉士より学ぶ機会を設けている。 日常では職員の言葉や態度より、今後虐待に発展するような状態が隠れていないか注意を払い、特に入浴時には全身を観察して不審な外傷等がないか確認し、虐待の予防・早期発見に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修計画に組み込み社会福祉士より学ぶ機会を設けており、制度に関する資料を備え、誰でも閲覧できるようにしている。また法人では包括の委託を受け、市の社協や特養入居者の後見人との関係も良好でちょっとした疑問も聞きやすい環境である。これまで事例はないが、当たり前の権利が妨げられないように努めている。	まだ成年後見制度を利用された入居者はおられませんが、制度についてや権利擁護についての研修機会は設けられています。具体的に必要性が出てきた場合は、法人内の有識者に協力を依頼する体制も整っています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添いながら、事例を挙げる等してわかりやすい説明に努めている。 また、契約や改定に留まらず、定期的に開催している家族会の中でも不安や疑問をお尋ねし、その解消を図っている。特に重度化への不安に関しては協力病院や特養の見学や連携について説明し、安心していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見や要望を引き出す会を週1回開催し、行事や毎日の食事等テーマを設けて意見を聴き出している。ご家族とは忌憚なく意見をいただけるような関係作りを努めており、家族会でも話し合いの時間を設けている。 また、月1回あんしん介護相談員の訪問を受け入れ、ご利用者が第三者と接する機会がある。	利用者や家族の意見は尊重されており、要望に対してはすぐに話し合っサービスに反映されています。日頃から意見が言いやすい環境を整えるよう心掛け、世間話などからも問題が捉えられるように努められています。	家庭の事情や都合によりホームへ足を運べない家族にも、利用者の生活や状況をわかりやすく報告する仕組みなど、家族に安心して頂けるような連絡体制を再考されることを推奨します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議の他、普段の業務の中でも意見や提案があれば、すぐに取り入れれたり臨時会議で話し合ったりして反映している。現場で解消できない内容は、管理者を通して法人で検討し、意見が無視されることはない。産休や育休、介護休業など職員が退職しないで済むような仕組みもある。	スタッフ会議は発言しやすい雰囲気があり、様々な意見やアイデアなどが活発に出されています。また、個別面談も行われ、職員の要望や悩みにも対応されており、管理者と職員の間には信頼関係が築かれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職の社会的評価を上げるため、給与水準を定期的に見直し、研修や資格取得の為に仕組みがある。また、法人独自で有給休暇をとりやすい制度(記念日休暇)や交流を深めるためのコミュニケーション費を備えている。 勤務形態もできる限り希望に添い、私生活との両立が図れるよう配慮している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	労働基準監督署の助言に則り、定年を迎えた職員も仕事が続けられるように支援している。また、県が掲げる子育て応援宣言にも手を挙げ、子育て中の職員の勤務を調整したり、子供連れの会議出席、乳幼児の託児所も整備されている。異動に関しても本人と話し合い、異動先での支援体制も構築されている。	職員の家庭環境の変化や体力的な問題などを考慮し、可能な限りサポートが出来る様に努められています。法人内に24時間の託児所を設けられているほか、保育園の迎えの時間を考慮しての勤務時間の変更などにも対応されています。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご利用者に対し、これまでの生活背景や身体的特徴等による差別的な態度が無意識のうちにもないかという視点を持っている。言葉遣いや態度は細やかに指導しており、事態によっては職員全体で話し合う姿勢がある。抑制廃止委員会や定期的な施設内研修でも直接、間接的な表現で人権教育を徹底させている。	人権の大切さについては、研修や話し合いを通じて、職員の理解に繋がっており、利用者の人権が侵害されないように、日頃から意識してケアが行われています。言葉遣いや態度が不適切な場合は、職員同士でもその都度、注意が促されています。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々に合わせ適切な研修受講を勧めると共に、職員からの受講要望にも積極的に応じている。年6回施設内研修、新人研修を法人として開催し、ホームでも独自の勉強会や外部研修受講者による伝達講習を行い、職員教育に取り組んでいる。年度末には「1年を振り返って」を個々が記入し、職員育てに寄与している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者として同業者の集まる場には積極的に出席する機会があり、少しずつだが関係が広がっている。法人として外部より評価していただく取り組みを行っており、同業者の参加もある。見学を含めた訪問を受け入れ、交流を図っている。法人内の別事業所においても委員会やイベント等を通して交流が盛んである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅やサービス利用先を訪問したり、ホームに来て頂いてご本人と面談し、話をする機会を設けている。ご利用者によっては複数回面会する等して、入居までに顔を覚えて頂き少しでも安心できるように努めている。入居を前提に法人が運営する他の事業所を利用して頂くこともあり、ご本人の安心に配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点である程度説明は行っているが、入居を決める段階で、電話やホームに来ていただく等して改めて十分な説明を行っている。ご家族からも不安や要望を引き出しながら、その過程で関係づくりに努めている。入居を前提に法人が運営する他の事業所を利用して頂くこともあり、ご家族との信頼関係に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム側が入居受け入れ可能となったとしても、現在のサービス利用継続や他のサービスで在宅生活が維持できないか、認知症対応型共同生活介護の入居が適しているか等見極め、ご本人及びご家族と相談している。入居を前提に法人が運営する他の事業所を利用して頂くことで入居を先延ばしに出来る態勢もある。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵や漢字等、様々な事柄でご利用者より教えていただく場面を演出し、一緒に考えたり悩んだりして、互いに助け合いながら共に暮らしている関係性を大事にしている。夜勤などでは人には言えない家族の悩みを聞いていただくこともあり、職員の方が助けてもらっているような関係の場面が多々ある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に関催する家族会では運営に対するアドバイスをいただき、行事や外出時には協力を求めてホームの活動を共にしている。 面会時には状態報告をしながらご家族からの情報を得ることでケアに反映させ、共に支援する立場として一緒に悩み相談しながらケアに取り組むように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろん、友人や知人の訪問も歓迎し、居室に限らず共有空間でもゆっくりと過ごしていただけるよう、お茶を出したり一緒に談笑して、また来たいと感じていただけるよう努めている。 また、外出時には自宅に立ち寄りたり、一時帰宅も支援している。	生活の中の楽しみの一つとして、思い出支援や馴染みの方々との関係継続に努められています。本人の記憶や家族から得られた情報をもとに、利用者に懐かしい味を食して頂いたり、外出時には思い出の店や自宅近くまで足を運ぶ支援なども見られます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちなご利用者や一方的に攻撃を受けやすいご利用者には、職員が適当に介入して利用者同士の関わり合いを手助けしている。そのため病気の時は心配したりされる。また、それぞれにご本人が一人になった時を見計らい、日頃の不安や悲しみを聞き取り、個別での外出支援などストレスが溜まらないように工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される時は今後も気軽に相談していただくよう声かけし、転居や入院先へ定期的に面会に行き関係を維持している。特に、入院された場合はこまめに経過を把握し、必要に応じて転居先や転居先の相談にのり支援に努めている。 亡くなった方には必ずお参りに行き、ご家族の悲しみ、これまでの苦労を労っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画更新時に限らず、日々の様々な場面でご利用者の意思を確認している。特に本人会議「なかよし会」での意向把握、外出や入浴等個別での対応の時にご本人の気持ちを聞き取り意向を知る手段としている。重度の方も時間をかけ、ご本人の表情やしぐさで気持ちを汲み取るように努力している。	利用者一人ひとりの生活パターンを尊重した柔軟なケアが行われ、起床や朝食時間なども柔軟な対応が見られます。夜間眠れない利用者がいる時は、ホットミルク等を飲んで頂きながら話を伺うなど、利用者の気持ちに寄り添った支援が行われています。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を用いて情報を得る他、日々本人やご家族から得られる内容はシートや申し送りで伝達し、把握に努めている。把握した内容は、実際のケアや日常会話の糸口にすることで、コミュニケーションの充実を図り、よりその人らしい生活に繋がられるよう努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何気ない関わりの中でも表情や言葉から心身の状態を察し、変化や何らかの可能性がないか把握に努めている。日々の気づきは記録だけでなく申し送りで細やかに情報を伝達し、状況に応じて直ぐにケアに反映したり、看護師への相談や医療機関に繋いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の暮らしから課題を見出し、本人や家族の意向を基に、担当者会議を通して一緒に介護計画を作成している。 モニタリングは定期的に行いつつも、日々の中で課題が発生すれば速やかに話し合い、サービスを適宜見直している。	ケアプラン作成時には、利用者や家族の希望を丁寧に伺い、それに加えて職員が日々の気付きや課題などについての意見を出し合いながら作成されています。利用者本人の発した言葉なども含めるなど、わかりやすいケアプランの作成に努められています。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録だけでなく、アセスメント要素のある内容は細やかに記録し、介護計画に反映している。その為特記の項目を設け、記録からの情報を解りやすくしている。 記録では伝わりにくいこともあり、内容によっては口頭でも申し送り、職員間で情報が共有できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が高齢であったり遠方に住まわれていたり、本人のサポートが十分にできない状況もあり、病院受診や外出の付き添い、家具の修繕に至るまで、その時必要なサービスを柔軟に対応している。1階には地域交流拠点もあるため、共同で地域を巻き込んだ行事を運営し、市と地域との徘徊模擬訓練に協力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事である校区のお祭りやラジオ体操等に参加するほか、ホーム主催でグランドゴルフ大会等の地域のイベントを開催し、資源拡大にも努めている。 スーパーへの買い物や郵便物投函等、地域資源を広く捉え、可能性を絞らないように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にこれまでのかかりつけ医の継続、協力医療機関の説明を行い、本人及び家族の意向に添っている。医療機関とは相互に助け合いながらスムーズな体制を心掛けており、気軽に相談ができる関係が築けている。受診時には十分な情報が提供に努め、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者・家族が希望すれば、かかりつけ医の継続受診も出来るように支援されています。ホームには協力医療機関が複数あり、往診や夜間対応も可能とされています。また各医療機関との連携体制も整っています。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	配置看護師が業務に入る他、頻繁に訪れご利用者の状態把握を行っている。その際、状態を伝達するだけでなく気づきを相談し、医療的な判断を仰いでいる。併設した事業所の看護職員もおり、いつでも相談できる体制にある。訪問看護ステーションからの定期訪問もあり、ちょっとした相談も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には口頭及び書面で情報提供を行い、病院側がスムーズに治療できるよう努めている。入院中は定期的に見舞い、病棟の看護師より情報を得たり、訪問看護サービスの利用も視野に入院期間が無駄に延長しないよう働きかけている。また、異状の早期発見に努め、医療に繋げることで入院期間を最短にしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者とは普通の会話から死生観がうかがえる内容もあり、その時に備えた指標としている。ご家族には入居時に医療受診確認書で意向を聴取する他、重度化や終末期が現実的になった際に今後の予測に添って話し合いを行っている。	看取り介護の実績もあり、24時間対応の協力医や訪問看護ステーションと連携しながら、安心できる環境の中で利用者が、穏やかに過ごせるように努められています。終末期には、家族による泊りの付き添いなどにも対応されています。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の研修計画に緊急時の対応が組み込まれており消防隊員より学ぶ機会がある。受講者がホームで伝達講習を行うことで全職員に周知している。実際の事故を通して実践力が向上しているが、対応に心配のある事故も少なくなく、職員のスキルにも差がある。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した防災訓練を定期的に行い、マニュアルも整備している。訓練には地域住民にも参加していただき協力が得られているが、一部の住民であり十分とは言えない。また、火災以外の風水害においては整備が不十分であり、マニュアル作成も遅れている。	避難訓練は実際に夜間帯にも実施されており、訓練後には職員みんなで反省会が行われています。フロアには出入口の他に非常口が2か所設けられ、スムーズな避難導線が確保されています。非常災害時に備えて、食料や水も確保されています。	近隣の多くの方々との関係構築を図られ、更なる災害対策の充実に繋がれることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症により現実と異なった言動があるが、間違いをただ指摘するような対応はせず、それを受け止めたり、さり気ない対応で自尊心を大切にしている。	日頃より利用者の尊厳については、職員全員で話し合いながら確認をされています。排泄の失敗があった時は他の利用者には気付かれないよう素早く対処し、衣類や排泄物を処理する際も手提げバッグに入れて周りにわからないように配慮されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のあらゆる場面で自分の意思に伴った行動ができるよう、職員側の都合や予定を押し付けないよう支援している。ご利用者にとって言い表しにくいようなネガティブな思いも汲み取り、言葉の掛け方や職員が率先してその意見を表す等して工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴や就寝といった日課において、ご利用者の思いを尊重し、個人のペースで過ごしていただいている。 予定していた外出に限らず、「〇〇屋の〇〇が食べたい。」等の突発的な希望にも業務を調整して優先的に対応できるように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症により忘れがちな身だしなみの場面では「髪はいいですか？」等声をかけたり、使いやすい位置に道具をセッティングしたりと自分で気づき行動できるように支援している。 衣服を着替える場合は自分で選んだり、こちらから選択肢を与えられるように取り組んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の食べたいものをうかがい、ホームの食事に取り入れるだけでなく、外出して食事を楽しむこともある。日々の食事は素材をヒントにご利用者と献立を考えたり、調理方法を指導してもらうこともある。ご利用者の力に応じて、もやしの根切りや片付け等力を発揮できるように支援している。	地産地消により安全な旬の素材を美味しく食べて頂くよう献立にも工夫が見られます。また、彩りや盛り付けなど目でも楽しめる食事の提供に努められています。対面式のオープンキッチンとなっており、利用者も気軽にお手伝いをされています。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の献立はある程度の栄養学のもとに組み立て、栄養が偏らないように努めている。 個別に摂取量を把握し、習慣に合わせた時間の食事や食欲低下の方には好物を用意したり、飲み物も選択できる等、一人ひとりに応じた対応をしている。また、不足しがちな乳製品を毎日取り入れ、検食簿により味付けにも工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを好まない方が多く毎食後ではないが、個別に必要な頻度で口腔ケアを行っている。それぞれの能力に応じ、物品のセッティングだけであったり、ブラッシングも介助する等様々であるが、基本的に自立している方でも定期的に口腔を観察し異状の発見に努め、必要に応じて歯科受診に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のサインがあれば速やかに誘導するのはもちろん、排泄パターンを把握し適宜誘導し、失敗及びそれによる自信喪失がないように支援している。 居室にはトイレが完備され、環境として精神的・身体的にも自立した状態が保ちやすい。	各居室にトイレが設置されており、行きたい時に気兼ねすることなくトイレを使用することが出来ます。居室のトイレは広さや手すりの位置など、座位や立位がスムーズに行えるように考慮されており、排泄の自立に向けた支援が行われています。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の朝食にヨーグルトをつけ、乳飲料を1日コップ1杯は摂っていただいている。ホーム内で栄養の勉強会を行い、食物繊維を含む食材を意識的に取り入れている。 排便の有無を把握し、医師の指示のもと緩下剤を調整してコントロールしている。また、体操を取り入れ腹筋強化にも努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の好き好きによって毎日であったり週2回と少なかったり様々である。特に好まない方は、誘う声の掛け方やタイミングを工夫し、できるだけ快い気持ちで入浴していただけるようにしている。また、入浴はプライバシーにも大きく関わる場面であり、同性介助や羞恥心に配慮した支援を行っている。	利用者の気持ちを尊重しながら快適に入浴できるよう支援され、状態に合わせて介助方法や見守りの度合いを検討されています。脱衣場と浴室には、エアコンが設置され温度差にも配慮されています。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態や日中の活動によって、休息のとり方に配慮している。 そのため、安易に睡眠剤は使わず、夜間寝つけない場合は、暫く話をしたりホットミルクを用意する等リラックスできるように対応し、安眠の手助けを行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を保管し、職員がいつでも確認できるようにしており、血圧降下剤や血栓抑制剤など、特に日常生活で重要な薬については把握し注意している。処方の変更があった場合は、記録だけでなく口頭で申し送り症状の変化を確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事、入浴といった当たり前の日課に加え、1日2回の体操・活動や調理、買い物等生活の中にアクセントを付け、気分転換ができるよう支援している。一人ひとりの能力に合わせた役割や活動を見極め、それが反対に自信喪失する場面とならないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調、職員の勤務状況にもよるが、できる限り希望に添い、近隣の散歩や買い物等こちらから提案して外出することもある。毎月、担当者を決めて楽しみごとを設けており、季節の花見物や距離のある日帰り旅行など、ご家族の協力を得ながら実施している。	天気の良い日には、敷地内での日光浴や近くの公園への散歩などを楽しんでいます。食材の買い物や郵便局などへ出掛けることは日常的で、近隣の同一法人事業所を訪問された際には、お茶やカラオケを楽しんでいます。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自分で所持される場合は、紛失等のトラブルにご家族の理解があれば受け入れており、ちょっとした買い物や職員へ感謝の気持ちを渡す小遣いを渡され等、社会性やプライドを保つ一つのツールと考えている。 小遣い程度の金額はホームでお預かりし、外出時などに自由に使えるよう支援している。			
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が不安になられたり、用件がある等で電話する必要が生じればその手助けをし、ゆっくりお話していただけるよう環境にも配慮している。携帯電話を所持されている方も2名おられ、操作の方法に迷われれば随時手助けしている。手紙は本人に手渡し、葉書の購入時には郵便局へ同行して買い物の支援を行っている。			
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから繋がるベランダには季節の花や旬の野菜をプランターに植え、室内も季節感のあるしつらえに努めている。 床はカーペットで靴を履かないしつらえであり足音は殆どなく、職員の声も含め環境として不快な刺激がないよう心掛けている。ナースコールもなく、食事中は静かな音楽だけにしてている。	リビングとダイニングのある仕切りのない広い部屋の周りに利用者の居室あり、目配りの利く造りとなっています。天井が高く開放感があり、ゆとりのある空間が設えられています。また、ホームエレベーターも設置されています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席はご利用者同士の関係を考慮した上で固定しているが、それ以外の時間やリビングでは気の合った者でゆっくり過ごせるよう、「どこに座りますか?」と意思を尋ねながら手助けしている。また、応接スペースも設けており、普段はご利用者も含めて自由に過ごしていただける空間としている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に持ち込みの制限はなく、冷蔵庫や仏壇等の家財を持ち込まれている。入居時には使い慣れた物や使い易い物を推奨し、ご利用者・ご家族と相談しながら工夫している。 日常的には日差しや室温の調整には気を配り、心地よく過ごせるように支援している。	全居室に洗面台・トイレ・ベッドが備え付けられています。部屋の壁紙と洗面台の鏡の縁は居室毎に異なるデザインとなっており、画一的にならないよう工夫が見られます。使い慣れた家具を自由に持ち込まれており、居心地良い空間が設えられています。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段は一段の高さが低めで上り下りがやすく、居室トイレは立ち上がりや姿勢保持がしやすいような広さ手すりの設置となっており、できることが発揮できるよう工夫している。居室のクロス・カーテンはそれぞれ異なり、またドアに表札を取り付けることで認知症の方でも自分の部屋が認識できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		